よみうり
大江戸あんしんぶん

第37号
発行：東京読売防犯協力会
制作：東部読売会
編集：東都よみうり新聞社
〒134-0091 江戸川区船堀 3-7-11
矢島ビル 301
☎03-6663-9010
無料

〝1人1箱の支援物資で被災後 72 時間を乗り切る〟
民間支援の新たな試み
墨田区内の福祉作業所も梱包チームの一員に

リストにある品物を箱に詰める作業を行う通所者。箱にきちんと収めるためにそれぞれの物資を正確に配置することも求められる

被災後３日間（72時間）を生き延びるために必要な１人分の生活用品をパッケージ化して備蓄し、災害発生時に被災地へ送り届ける新しい支援の試みが本格的に活動を始めている。「Guardian(ガーディアン)72災害支援プロジェクト」と名付けられた取り組みを進める株式会社ミューチュアル・エイド・セオリー（千代田区）は、業務の一部を作業所に発注することで通所する障害者の工賃アップにも寄与したいと、墨田区の作業所との連携を決め、３月16日に作業の様子を報道陣に公開した。

「G72災害支援プロジェクト」は、被災地に外部から支援物資が届けられるまでの約72時間の生存に必要なものを１人１箱のセットにして備蓄し、被災地に届ける活動だ。「G72」のロゴマークが印刷された箱には水や非常食、衣類や生理用品、おむつなどが入っている。災害時に帰宅困難者が大量に出る都心や、物資輸送が難しい離島に備蓄することで何も持ち合わせていない状態で被災した時に困る人を減らすねらいもある。箱は、企業や団体に事前購入してもらい、シリアルナンバーをつけて物資の保存期間などを管理しながら、どこで活用されたかも支援者に報告される。

民間による災害支援の新たな仕組みを提唱する「株式会社ミューチュアル・エイド・セオリー」の有馬朱美代表は、1991年に雲仙普賢岳噴火で土石流を免れた被災経験を持つ。発災後の避難所の混乱した状況を知る有馬さんは、2016年の熊本地震でも自治体の職員が自ら被災しているのにもかかわらず避難所の運営に奔走している状況が変わっていないことを知り、支援物資の仕分けや配布管理にかける時間や労力を軽減するための民間支援を考案した。準備期間を経て2018年から「G72」の備蓄を開始。９月の北海道胆振東部地震や2019年１月に口永良部島の新岳が噴火した時は避難所に「G72」の支援物資が届けられた。

「G72」に入っている生活用品。自分にとって不要のものは、他の人に譲ることで避難所内でのコミュニケーションにもつながるという

支援物資「G72ボックス」を有馬さん（左）から受け取る荒木耕治屋久島町長。都内から２回に分けて運ばれた105箱が４月11日に口永良部島番屋ヶ峰避難所に届けられた

墨田区立ふれあいセンター福祉作業所（墨田区緑・山本雅隆所長）との連携は、同センターに仕事を発注する墨田区内の会社を通じて始まった。リストにある物資を所定の位置に合わせて箱詰めし、番号管理のタグをつけて「G72」を完成させる作業を同センターに依頼した。16日は、口永良部島に届ける80箱の一部を作る作業が公開され、通所者３人が職員の助けを得ながら１箱に47品目の食料品や衣類などを詰めていった。１箱分を作る作業代を、他の会社に依頼するのと同じ価格に設定し、健常者と差をつけない金額で報酬を支払う。

同プロジェクトでは、国内の有人島や都内の環状七号線内側地域を中心に2020年までに1280万セットの備蓄を目標に掲げる。有馬さんは、今後「G72」の生産量を増加させる上で福祉作業所との連携体制が広がれば大きな力になるという。「これからの時代は災害と共存しなければならないと思っている。障害者も健常者も同じという考えで進めていきたい」と話していた。

新聞代集金詐欺にご注意を!!

（新聞販売店員を装い、）
今日、新聞の購読契約をし、新聞代１年分を一括前金で払っていただければ、月 2,000 円に値引きします。

と言って、24,000 円を騙し取る。

最近集金詐欺が急増しています!

他にも、

（新聞代の集金を装い、）
今、手持ちのお金がないので、後でおつりを持ってきます。

と言って、新聞代金を騙し取る。

という手口も。ご注意を!!